

一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会
2019年度 第4回定例理事会議事録要旨

日 時：2019年8月2日（金）16：00～19：00

場 所：東海東京証券（株）オルクドール・サロン

出席者：理事長：東口高志

副理事長：佐々木雅也

監 事：寺本房子、土岐 彰

理 事：飯島正平、石井良昌、犬飼道雄、遠藤陽子、倉田なおみ、小谷穰治、小山 諭、
斎藤恵子、篠 聡子、清水孝宏、高増哲也、中瀬 一、鍋谷圭宏、二村昭彦、
丸山道生、三原千恵、室井延之、山中英治、吉田貞夫

特任顧問：平田公一

事務局幹事：伊藤彰博

記 録：中川庸幸（事務局）

欠 席 者：監 事：比企直樹、田妻 進

特任顧問：平井敏弘

理 事：祖父江和哉、鈴木 裕、野上哲史、福島亮治、鷺澤尚宏

（敬称略：五十音順）

議 題：

I. 理事長挨拶

定款第5章第28条に則り、2019年度第4回定例理事会を開催することが宣言され、定款第5章第30条に則り、議長は理事長が務め、議事録署名は定款第33条に則り、理事長と出席した監事（寺本房子、土岐 彰各監事）となることが確認された。

II. 前回理事会議事録の確認について

前回理事会議事録が承認され、議事録署名手続きに入ることが報告された。

III. 会員動向について

事務局より2019年6月30日時点の会員動向について、報告された。

■2019年6月30日現在 ※宛先不明123名含む、退会・休会（169名）除く

会員種別	2019年3月31日	2019年6月30日	増減
名誉会長	2名	2名	±0名
名誉会員	44名	44名	±0名
特別会員	51名	50名	-1名
代議員	235名	234名	-1名
学術評議員（代議員は除く）	395名	422名	+27名
正会員	21,035名	21,635名	+600名
寄贈会員	8名	8名	±0名
総数	21,797名	22,395名	+598名

■職種別

医師	4,713名	栄養士	82名	診療放射線技師	2名
歯科医師	404名	臨床検査技師	725名	その他*	813名
看護師	4,111名	理学療法士	431名	*ログインシステム未入力会員	
准看護師	4名	作業療法士	122名	合計	22,395名
薬剤師	4,034名	言語聴覚士	611名		
管理栄養士	6,222名	歯科衛生士	121名		

IV. 委員会予算執行状況について

事務局から2019年1月1日～6月30日までの委員会予算執行状況が報告された。

V. 第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会について

佐々木会長から第35回学術集会のプログラムと概要について説明がされた。合同シンポジウムについては、相手学会との招聘内容についても確認され、前回理事会で確認された方針にそって進めているとの報告がされた。

VI. 支部会・支部学術集会について

支部統括委員会の犬飼委員長から新支部会制度に関する説明がされた。

- ・第3回定例理事会「支部会のあり方について」との議案において、支部の現状と問題点について報告がされた。支部会活動においても学会本部と同様に内部統制を考慮した活動の検討を行う時期にきているとの点を確認し、抜本的な改革（新しい支部の体制）を進めることについて理事会で承認され、新支部体制に向けて支部会活動委員会の後任委員会となる支部統括委員会にて具体的な手続きについて協議していくことになった。
- ・第3回定例理事会承認に基づき、第1回支部統括委員会を開始し、新支部体制の在り方として以下の点について検討を行った。
 - 1) 現状の問題点、2) 支部区分について、3) 支部会補助金について、4) 支部会計について、5) 支部学術集会運営について
- ・上記の検討の他、新支部体制では、本会と各支部会がより連携した活動を進めていく必要がある。各支部会則の上部規則となる支部規則を制定することで、各支部世話人会や一定の基本となる事業活動を共通の認識で活動できるよう支部活動の土台となる支部規則（案）を策定することになった。
- ・新支部体制への移行には、支部長のご理解と協力が必要なため、2019年第1回支部長・支部統括委員会会議を7月4日に開催し、今回の新支部制度への移行の必要性についての説明と協力について依頼をお願いした。出席した各支部長からは改革の方向性についてご理解をいただいた。また、新世話人体制の発足のためには、当該支部における現在の代議員・学術評議員情報の提供、事業計画・事業報告・会計報告等の作成に関する学会本部のサポートなどの要望をいただき、支部統括委員会・事務局にて協力して進めていくことが確認され、同会議で協議された内容を第4回定例理事会での承認を経て、新支部制度をスタートすることになった。

以上の説明の後、提出された資料に基づき新支部制度の内容に関して審議を行った。

一部の事項で継続審議となったが、2020年1月1日から新支部制度をスタートする方向性については、全会一致で承認された。本理事会承認された新支部制度に関する事項は以下のとおり。

- 1) 新支部制度における支部長・世話人会の構成
 - ・就任4年以上の現支部長は本年12月末をもって任期満了とする。
 - ・世話人は学術評議員・代議員が就任する。現正会員資格の世話人の方には、理事会推薦代議員・学術評議員への申請をご案内する。(移行措置含)
- 2) 現支部区分から新支部区分への移行
 - (1) 北海道支部、(2) 東北支部、(3) 北関東支部、(4) 首都圏支部、(5) 東海・北陸支部、(6) 近畿支部、(7) 中国・四国支部、(8) 九州支部※ (3) 北関東支部・(4) 首都圏支部の区域については理事会で継続審議とする。
- 3) 本部会計と支部会計の合同決算のための会計年度の統一
- 4) 支部活動補助金の支給について
現在、均一で助成している100万円については、事業計画に基づく助成制度へ変更する。
- 5) 事業報告書(決算)・事業計画書(予算含)の提出
会計報告を含む事業監査は、支部の監事役でなく支部統括委員会が担当する。
- 6) 支部学術集会の開催について
各支部で実施が承認されている支部学術集会については、新支部制度の事業として2020年決定分までの開催を認め、2021年度以降は支部長が理事会へ支部学術集会会長候補として提出し、承認を経る形へ移行する。
 - ・支部世話人会および支部学術集会時の懇親会に関する考え方について
新支部制度における審議において、飲食に関する支出の確認があった。世話人会後の懇親会への経費補助に関する確認で、一定の見解を示してほしいとのことであった。各理事より各支部世話人会での現状が確認され、本理事会としては、世話人会後の懇親会等への経費補助は、各支部に所属する会員全員が享受するものでないため、本会の各種会議と同様にお弁当・お茶までの支給が適当であるとの見解を共有することになった。なお、世話人会後に懇親会を自己負担で行うことについては問題なく、懇親会の開催を制約するものではないことも確認された。

VII. 各種アワード選考について

- ・各種委員会の再編成に伴い、各アワードの選考委員会も再編となった。YOUNG DOCTORS AWARD、YOUNG INVESTIGATOR AWARD、JSPEN スカラースhip賞、フェローシップ賞の受賞講演は含まない内容に変更した。さらに総会・学術評議員会の開催を二日目の昼頃に移行し、学会会期中に表彰式を執り行うことでスケジュールを統一することになった。また、本年の募集・選考開始に伴い、各種アワードの募集要項、選考規程の変更案が提出され、承認された。

VIII. 代議員の新規(新推薦制度含)・再任申請について

- ・新規・再任代議員・理事会推薦代議員の申請公示について
本年は代議員の新規・再任申請年であることから、理事会にて申請書類の確認を行った。また、定款施行細則第22条4項に従い、今回より新推薦制度として理事会推薦代議員制度が発足するため、関係書類について併せて承認がされた。
- ・学術評議員の申請公示について
今期の学術評議員の申請公示および申請書類案が提出され、承認された。

IX. 各種委員会・部会 審議事項

総務委員会（飯島理事）

- ・学会ホームページコンテンツの検討について（総務 広報 WG・NST 委員会）

現在のホームページがオープンされ2年が経過したことを受け、広報 WG ではコンテンツ内容充実を図るため協議を進めてきた。今後、以下の項目について構築していくことが承認された。

- ① NST 委員会ホームページの併合と再構築、②広報媒体としての有用性コンテンツの構築
- ③一般向けコンテンツの構築、④よくある質問のページの構築

- ・本学会の資格制度について見直しの提案について（認定・資格制度委員会 審議事項参照）

本学会の資格制度は認定医、認定歯科医、指導医、NST 専門療法士があり、さらにその上級資格である臨床栄養代謝専門療法士認定制度も新資格として稼働が開始された。会員の努力により取得された資格が、更新条件を満たせずに失効してしまう事例が現制度で多く発生していたため、個別の制度と関連する制度とを連動させて一度全体を見直しの必要性が出てきた。

本委員会として認定・資格制度委員会、将来構想委員会と連携し、将来に向けた安定した制度作りについての協議を開始したいとの方針が示された。特に認定教育施設の維持と質の担保が当面の重要課題となっており、認定教育施設の新たな指導責任者資格の創設（教育医（仮称））など、協議を開始していくことになった。

規約委員会（石井理事）

- ・定款施行細則－第9章（委員会）の変更について

前回の理事会で委員会の再編について承認されたことを受けて、定款施行細則における設置委員会名も変更となるため、変更案が提出され、異議なく承認された。

nutritionDay WG（小山理事）

- ・nutritionDay 研究実施計画書および説明同意文書の改訂について

nutritionDay の研究計画書や説明同意文書に関して、以下の項目について改訂を行う必要があるため、倫理委員会に倫理審査を依頼し、nutritionDay 実施継続について承認され、本理事会でも承認された。本年は11月7日が nutritionDay となる。

- 1) 個人情報保護法の改定に伴い、研究実施計画書にある包括同意や利益相反についての内容の追加および改訂、加えて説明同意文書の改訂
- 2) 研究組織改編に伴う変更
- 3) 研究の継続に伴う研究期間の延長

保険委員会（飯島理事）

- ・輸液製剤協議会からの学会としての意見書提出依頼について

- 1) 臨床栄養領域における輸液製剤の必要性に関する学会意見書の提出について

基礎的輸液をはじめとする輸液製剤は、臨床栄養療法に欠かすことのできない医薬品であるにもかかわらず、不採算に陥っている品目がある。これまでの当学会から要望書を提出時、2年ごとの改定毎に何らかの製品が配慮されてきた。今回も輸液協の要望に対応し医療現場において必要性が高い輸液製剤に対して、特段の配慮を希望する意見書を学会から当局へ提出することが承認された。

- 2) 臨床栄養領域におけるキット製剤の重要性に関する学会意見書の提出について

臨床栄養領域におけるキット製剤は、院内において無菌的な混合調製作業に欠かすことの

できないものとなっている。長年にわたる薬価の引き下げの影響により、新規設備投資が厳しい状況にある。同キット製剤において、既に基礎的医薬品の対象となっている輸液製剤の組み合わせの場合、当該キット製剤についても基礎的医薬品の対象とし、不採算に陥る前に薬価上での下支えをすることで、安定供給を確保することに対して、特段の配慮を希望する意見書を学会から当局へ提出することが承認された。

教育委員会（鍋谷理事）

- ・第6回 JSPEN 栄養マスターコースの開催計画と領域について
第6回の開催計画と新認定制度における領域案が示され承認された。
日時：2019年10月6日（日）10：00～16：00
場所：東海東京証券（株）オルクドール・サロン
定員：80名
臨床栄養代謝専門療法士申請取得領域：①摂食・嚥下、②在宅
講師：津田豪太先生（聖隷佐倉市民病院 耳鼻咽喉科）
武内有城先生（たけうちファミリークリニック）
タスクフォース：東口理事長、鍋谷教育委員長、高崎美幸先生、荻野 晃先生、戸丸悟志
- ・第2回 NST ベーシックコースの開催計画について
本年は薬剤師部会の企画担当となり、以下の計画で進めることが承認された。
日時：2019年11月17日（日）12：30～16：30
場所：AP 東京八重洲通り
定員：90名予定
内容：①「栄養評価」講師：丸山道生先生（60分）
②「静脈栄養の基礎」講師：二村昭彦先生（薬剤師部会）
評価・コメント：鍋谷圭宏先生（教育委員会委員長）、タスクフォース：市川佳孝先生（看護師部会）、斎野容子先生（栄養士・管理栄養士部会）
③「相互接続防止コネクタに係る国際規格（ISO80369-3）の導入について」（30分）
JSPEN 誤接続防止対策プロジェクト：丸山道生先生&倉田なおみ先生
- ・受験必須セミナー講師の再募集（リスト再編成）について
現在の講師リストは2016年3月に作成し、全員が一度は講師を担当したことから、2020年に向けて、リストの作り直しを検討している。理由としては、①認定試験 WG に関わる先生は講義を担当しないことになり、担当講師が減少した。②講師の若返りを図る。③在宅栄養の講義などは担当できる先生が限られており、またベテランの力も欠かせない。これまでは自主的な応募だけにしていたが、担当可能者の少ない分野は学会（教育委員会と理事会での議論を経て）側からの推薦という形でリスト参加依頼も検討したい。との提案がなされその方向で進めることが承認された。

教育委員会 LLL WG（高増理事）

- ・第18回 LLL ライブコースについて
例年、LLL ライブコースは年2回の開催で計画し、3月・8月に開催してきた。より多くの参加者を募るためには、会員へ早期にご案内をすることが条件となるため、開催日程と場所は、早めに決定しアナウンスする必要がある。例年になら来々年3月の開催日程案が提出され、開催地、開催日程について承認がされた。次回の理事会では、Topics・講師案を提出する。

■第 18 回 LLL ライブコース開催（案）

候補日：2020 年 3 月 14 日（土）・15 日（日）

開催地：東京（これまで開催した大学キャンパスを予定）

専門能力開発委員会 薬剤師部会（二村理事）

・LLL 事前学習会の講師追加について

LLL 事前学習会は薬剤師部会の事業として年間 2 コース、1 コース 3 回 計 6 回開催している。講師は市立甲府病院 薬剤師 牧 宏樹 先生（学術評議員）が 1 人で担当しているが、開催地も東京に限定されるため、今後の継続や各地域での開催を選択肢として考慮すると、毎年の LLL Diploma 取得者から事前学習会の講師を担っていただける方の追加など、効果的な運営方法の改善に関して検討依頼がなされた。

2020 年度からは LLL 事前学習会は教育委員会所管事業として、上記の検討課題も含めて継続協議していくことになった。

編集委員会（佐々木副理事長）

・各抄録集の J-STAGE 掲載について

e-Journal「学会誌 JSPEN」刊行に伴い、学術集会や地方会・研究会の抄録集は、e-Journal「学会誌 JSPEN」には掲載せず、各抄録集を個別に J-STAGE へ掲載し、これらを年 2 回、e-Journal「学会誌 JSPEN」の Supplement としてまとめることとした。しかし、抄録集を J-STAGE へ個別に掲載するためには、J-STAGE の掲載規定に従い巻号の付与が必要であることが判明したため、個別に J-STAGE へ掲載することはせず、年 2 回、e-Journal「学会誌 JSPEN」の Supplement としてまとめて掲載することが提案され、承認された。

・非会員査読者の謝礼について

座長推薦演題論文の査読は、推薦した座長が査読者を引き受ける形を取っているが、非会員の方がおられた。そのため、その他の謝金支給規定（源泉徴収対策）とも整合した対応として、金 8,000 円をお支払いすることについての確認がなされ、手配について承認された。

・静脈経腸栄養テキストブック 書名改定について

(株)南江堂より出版している静脈経腸栄養テキストブックについて、(株)南江堂より増刷依頼があった。本会は 2020 年より名称を変更するため、これに合わせ書名を「一般社団法人日本臨床栄養代謝学会 静脈経腸栄養テキストブック」と学会名変更を反映する必要性を検討したが、(株)南江堂からも読者が新たな書籍と誤解し購入する恐れがあるとの意見があったため、書名を『一般社団法人日本臨床栄養代謝学会（旧日本静脈経腸栄養学会） 静脈経腸栄養テキストブック』とするか、一般社団法人日本静脈経腸栄養学会 静脈経腸栄養テキストブックのままとし、帯を巻いてアピールするなど工夫で対応するかのいずれかの方法について選択する必要がある。審議の結果、帯を巻いてアピールする形での対応で依頼することになった。また、「一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会テキストブック」の発刊についても現行のテキストブックをベースとした改訂版とするなどの企画対応も併せて検討していくことになった。

用語委員会（中瀬理事）

・日本医学会医学用語管理委員会からのアンケートについて

日本医学会医学用語管理委員会・遺伝学用語改訂に関するワーキンググループより、日本医学会分科会に対し、「優性」「劣性」の代替語の提案に関するアンケート依頼があった。本件は昨年

からの協議継続となるが、当会としての回答方針の素案を審議するため、持ち回り委員会を開催し、本委員会では「顕性」「潜性」を支持する結果となった。以上の持ち回り審議を踏まえ、「優性」「劣性」の代替語として「顕性」「潜性」と回答することについて、本理事会での最終確認し、日本医学会へ回答することになった。

認定・資格制度委員会（三原理事）

- ・認定教育施設の指導責任者（認定医）不在について（総務委員会 審議事項参照）
現在の認定教育制度について以下の問題が生じはじめているため、対応方針につき審議した。
 - ① 認定医の資格が終了または認定医更新していない指導責任者への対応について
認定教育施設の指導責任者の維持については、総務委員会から議案提出（前述）されており、これまでの実施修練実績を考慮したうえで、新たな教育資格者制度（教育医（敬称））についての検討を開始することになった。
 - ② すでに実地修練を済ませているが、受験申請時に実施修練修了証・症例報告書について書類審査会で不備と判定し訂正指示した際に既に同施設に指導責任者が不在の場合の対応（逝去している、異動して連絡が取れない状況にあるケース）については、認定試験WGにて再審査・指導するとともに、当該認定教育施設の施設長の署名・捺印とすることで、症例報告書の訂正手続きについての担保とする。
- ・2020年 NST 専門療法士更新必須セミナーの講演タイトル・講師（案）について
2020年は以下の日程で会場確保したことが報告された。
第1回：2020年2月27日 第35回学術集会時（みやこめっせ）（700名）
第2回：2020年4月26日 大坂国際会議場（550名）
第3回：2020年5月17日 京都国際会議場（550名）
第4回：2020年10月11日 パシフィコ横浜（380名）
上記の日程に基づき、講演タイトルと講師陣について資料に基づき検討を行った。
2019年から臨床栄養代謝専門療法士認定制度が施行され、臨床栄養コンセンサス検討委員会で取り組んでいる9領域のWTと併せた講義にしていくことが確認され、2020年は、以下の領域テーマと講師陣とすることが承認された。
*講演テーマと講師案
WT004 腎疾患（野上哲史理事）、WT005 リハビリテーション（吉田貞夫理事）
WT007 小児領域（高増哲也理事）、WT009 周術期・救急集中治療（祖父江和哉理事）

NST委員会（中瀬理事）

- ・2019年度のNST委員会の活動指針について
今期の活動指針について、持ち回り委員会を開催し、以下の事業指針を3本柱としたことが報告され承認された。
 1. 地域一体型NST構築に向けて
 2. 栄養評価の改正プログラム（GLIM JSPEN 2-02）に関して
 3. NST稼働認定施設活性化プログラム（新NSTプロジェクト Reborn 01 創設：NST稼働認定施設の増加・活動内容の質の向上）
- ・栄養サポートチーム加算の増点を目指すため現在の算定と業務量に関するアンケート調査をNST稼働認定施設の代議員・学術評議員に向けて実施したことが報告された。

学術集会実践支援委員会 記念アワード選考 WG (山中理事)

- ・第 35 回学術集会 大柳治正記念学術振興アワード受賞者について
前期の選考委員会となる大柳治正記念学術振興アワード選考委員会からの申し送りを確認し、持ち回りで記念アワード選考 WG を開催し、第 14 回日本静脈経腸栄養学会集会会長をされた名誉会員の入山圭二先生に決定したことが報告され、承認された。
入山先生には学会事務局から受賞講演の内諾、関連講演の 2 名のご推挙についてお伺いさせていただき予定であるとの報告がされた。

ガイドライン委員会 (小谷理事)

- ・がん患者のための代謝・栄養管理ガイドライン作成メンバーについて
 - 1) 南郷栄秀先生のガイドラインアカデミック班の外部委員就任の見送りについて
前回理事会でガイドラインアカデミック班の外部委員として南郷栄秀先生の就任について承認を得た。外部委員就任の打診をお送りしたところ、南郷先生は多くの診療ガイドライン作成を指南しており、依頼を減らす目的もあってご自身で診療ガイドライン指南時の支援料金表の提示があった。予算上も当会の規約にも合致しないため、今回の外部委員のご就任は見送りしたいとの報告があり承認された。後任委員として采野 優先生 (京都大学大学院腫瘍薬物治療学講座) が候補として挙がっており、条件が合えば、外部委員としてお願いすることが確認された。
 - 2) 今後の委員会内の連絡のために、事務局へガイドライン委員会のグループメールの設定と Slack (<https://slack.com/intl/ja-jp/>) による情報共有で作業を進めていく。

P003 : 誤接続防止対策プロジェクト (丸山理事)

- ・コネクタ汚染と洗浄の検討について
誤接続防止コネクタの国内導入に伴う諸事の確認事項が生じており、PMDA、本会関係委員会とともに協力していくことが確認された。

X. 各種委員会・部会 報告事項

総務委員会 (飯島理事)

- ・日本医学会派遣委員について
日本医学会より 2019-2020 年度の加盟分科会からの派遣委員についての確認があり、今期体制について以下のとおり回答したことが報告された。
日本医学会 代議員 東口高志、日本医学会 連絡委員 福島亮治
日本医学会 用語委員 中瀬 一、日本医学会 用語(代)委員 鍋谷圭宏
- ・学術集会前日の各種委員会の開催について
各種委員会委員長に対して、2020 年の第 35 回学術集会より前日の委員会開催については中止としたことについて改めて説明がされた。

将来構想委員会 (鍋谷理事)

- ・今後の活動について
臨床栄養コンセンサス検討委員会と協力し、9 領域 WT の活動を開始した。それぞれのチームで CQ を集めることから開始し、現在の臨床栄養におけるコンセンサスの確立に向けて活動する。

専門能力開発委員会（鍋谷理事）

- ・今後の活動について

新しく専門能力開発委員会としてこれまでの3部会を統括して、相互の活動の活性化と情報共有を図ることとした。実際には、ベーシックセミナー企画の件や部会の規約など3部門共通の話題もあるので、3つの部会の情報共有をできるだけ密に行い、問題があるときは、専門能力開発委員会のメンバーで集合するとの活動方針が示された。

認定・資格制度委員会（三原理事）

- ・試験問題作成・選択WGについて

6月に問題作成会議を開催した。7月・8月で問題選択会議を開催し、8月下旬には、今年の試験問題が整う予定であることが報告された。

- ・学会の認める研究会への調査、見直しについて

専門療法士の掲載ページに「学会の認める全国学会・地方会・研究会に関する公告」が掲載されている。これまで本格的な活動の実態調査を行っていなかったため本委員会名で調査を行う準備を進めていることが報告された。また、ホームページ上の記載において、5単位認定の他学会の地方会も同等の単位を有するとの理解をされる方が時折おられるため、地方会で認められるのはJSPEN支部学術集会となるため標記を改めた。

- ・認定教育施設の指導責任者不在調査について（2019年7月31日現在）

認定教育施設の認定医在籍状況の確認のため、全体調査を実施した。調査結果をもとに本理事会での審議事項で決定された方針に基づき、対応を進めていく。

編集委員会（佐々木副理事長）

- ・学会誌 JSPEN 掲載状況（2019年8月日現在）について報告がされた。

- ・日本静脈経腸栄養学会雑誌刊行状況（2019年8月2日現在）について

2019年第34巻で刊行終了となる日本静脈経腸栄養学会雑誌は、2019年6月25日に第2号が刊行された。今後の発行予定は以下のとおり。

第3号：2019年8月25日（予定）号担当：小谷穰治「栄養管理と医療安全」

第4号：2019年10月25日（予定）号担当：千葉正博「NSTを再考する」

第5号：2019年12月25日（予定）号担当：犬飼道雄「検討中」

- ・e-Journal「学会誌 JSPEN」掲載状況（2019年7月29日現在）について報告がされた。

用語委員会（中瀬理事）

- ・前期委員会からの執筆継続依頼について

前期委員会の先生方に共同著者となっていただくことで、前期からの申し送りも含め、引き続き掲載に向けて進めていくことが報告された。

臨床栄養コンセンサス検討委員（犬飼理事）

- ・第1回委員会・ワーキングチーム（WT）長会議について

2019年6月16日（日）に第1回委員会・WT長会議を開催した。今後のスケジュール、WTメンバーへのキック・オフミーティングの手順についても意見交換を行った。7月10日に、委員長から本委員会メンバーとWT長に対してキック・オフ宣言がされ、各WT長から順次、活動が開始されている状況にある。また、WT長からチーム内でのCQの設置や協議に際して、推奨する

データベースやCQの立て方の方法など9領域WTが共通の認識で着手していく必要があるため、追加の手順書について確認を進めている。2021年2月の第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会時に9領域のコンセンサス本を出版する。

P003：誤接続防止対策プロジェクト（丸山理事）

- ・誤接続防止対策に関する論文や周知活動について

誤接続防止 ISO80369-3 の導入周知活動を PMDA 医療機器品質管理・安全対策部と JSPEN との協力で周知活動を展開している。今期は PMDA もしくは JSPEN より JSPEN 支部会学術集会および教育セミナーで ISO80369-3 の説明を行うことになった。

- ・誤接続防止 ISO80369-3 の JSPEN 論文発表について

○半固形栄養剤の注入基礎実験：Feasibility of international proposed standardized enteral connector for semi-solid formula feeding, Annals of Nutrition & Metabolism 2018 ; 73: 169-17

○固形栄養剤の注入官能実験：半固形化栄養剤注入における新誤接続防止コネクタ（ISO80369-3）のユーザビリティ評価—ヒトによる官能評価試験—、雑誌 JSPEN 1:98-103, 2019

○キサー食（小児）の注入実験：ミキサー食における新誤接続防止コネクタ（ISO80369-3）のユーザビリティ評価—ヒトによる官能評価試験—、雑誌 JSPEN IN PRESS

その他 報告事項

事務局（中川）

- ・日本静脈経腸栄養学会・日本心臓リハビリテーション学会ジョイントセッションについて
昨年、日本心臓リハビリテーション学会からジョイントセッションの申し出があり当会へ司会者の推薦依頼があり、山中理事を座長として派遣したジョイントセッションの報告がされた。

以 上

2019年8月2日(金)